

PC3010	中等教育課程論		
担当教員	吉富 芳正	受講方法	RTorSR

使用テキスト	配本年度
--------	------

『現代中等教育課程入門』吉富芳正(明星大学出版部)

2014 年度～2018 年度

『現代教育課程入門』吉富芳正(明星大学出版部)

2019 年度～

科目概要

教育基本法第6条第2条では、法律に定める学校、つまり学校教育法第1条で定める幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校などにおいては、「教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的な教育が組織的に行われなければならない」と規定されている。これは、学校での教育活動が意図的、体系的、組織的に行われることの必要性を示すものといえる。

このため、各学校では、教育活動全体の基幹となる教育課程を中心に、様々な計画が適切に編成され、効果的に実施されることが求められる。教員は、学校組織の一員として教育課程に関する知識を身に付け、その編成・実施のよりよい在り方を工夫し実践できる力量を磨き高めていくことが重要である。

学校の教育課程については、全国的に一定の教育水準を確保し、全国どこにおいても同水準の教育を受けることのできる機会を国民に保障するための基準として、学校種別ごとの学習指導要領が定められている。

2017・2018(平成 29・30)年に改訂された新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」という理念が掲げられ、子どもたちが新しい時代を切り拓いていくために必要な力を育成するために、①「何ができるようになるか」という視点から育成を目指す資質・能力を明確にし、②「何を学ぶか」という視点から教科等の構成や目標・内容等を見直すとともに、③「どのように学ぶか」という視点から主体的・対話的で深い学びを実現することが目指されている。こうした教育をよりよく進めるためカリキュラム・マネジメントを確立することも示されている。新学習指導要領は、幼稚園は2018年度から、小学校は2020年度から、中学校は2021年度からそれぞれ全面実施されており、高等学校は2022年度から年次進行で実施される。このように新学習指導要領が実施される時期に当たり、教育課程についてしっかり学び考えることは、教員を目指す上で極めて重要である。

こうした背景も踏まえつつ、本科目では、中等教育を中心に、教育課程の意義、関係法令、学習指導要領の特徴、教育課程の編成・実施のポイント、教育課程に関する基礎的な理論、教育課程の変遷などについて考えながら学び、学校の組織の一員として教育課程の編成・実施に主体的に参画・協働するために必要な知識と思考力、判断力、表現力などの能力を身に付けることを目指す。

「教育課程論」の学習に当たっては、扱う対象が幅広いため、全体像の把握に努め、いま学んでいることが全体のどこに位置づくのかを常に意識しておくことが大切である。また、学習内容について、すでに知っていることや経験と関連付けたり、学校現場での生かし方を考えたりしながら学習することが大切である。さらに、教員として勤務する上で踏まえるべき法令や学習指導要領についての知識を有することを重視している。

学習上の目標

■科目の到達目標

1. 教育課程の意義や各学校で教育課程を編成することの重要性について理解し説明できる。
2. 教育課程に関する法令や学習指導要領の特徴について理解し説明できる。
3. 学習指導要領総則に示された教育課程の編成・実施の考え方や配慮事項について理解し、よりよい工夫を考え、説明できる。
4. カリキュラムに関する基礎的な理論について理解し説明できる。
5. 教育課程のおよその変遷について理解し説明できる。

■科目の学習要点事項

1. 教育課程やカリキュラムなどの用語の定義と教育課程の意義
2. 教育課程関係法令と新学習指導要領の特徴
3. 教育課程の編成や実施の考え方や配慮事項
4. カリキュラムに関する基礎的な理論
5. 教育課程の歴史(戦後は学習指導要領の変遷を中心に)

参考文献

『中学校学習指導要領』文部科学省(東山書房)、2017(平成29)年3月告示

『高等学校学習指導要領』文部科学省、2018(平成30)年3月告示

『中学校学習指導要領解説総則編』文部科学省(東山書房)2017(平成29)年7月

『高等学校学習指導要領解説総則編』文部科学省(東洋館出版)、2018(平成30)年7月

※これらの学習指導要領関係の資料は、文部科学省のホームページでみることができる。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

吉富芳正ほか『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい、2020年4月

天笠茂『平成29年改訂中学校教育課程実践講座 総則』ぎょうせい、2017年10月

田村知子ほか『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい、2016年6月

評価基準

■レポート評価

- レポート課題が求めているポイントが的確に把握され、それを中心にまとめられている。
- レポート課題の要点に関する知識が適切に整理されるとともに、自分の考えが理由や根拠、具体例などを明確にして示されている。
- レポートの構成と表現が論理的であり、わかりやすく表現されている。

■科目終了試験評価

- 設問が求めているポイントが的確に把握され、それを中心にまとめられている。
- 設問の要点に関する知識が適切に整理されるとともに、自分の考えが理由や根拠、具体例などを明確にして示されている。
- 解答の構成と表現が論理的であり、わかりやすく表現されている。

『道徳教育の指導法』佐々井利夫・岩木晃範・森下恭光(明星大学出版部)	2013 年度～2017 年度
『道徳教育と道徳科の授業展開』堀家千晶ほか(明星大学出版部)	2018 年度～

科目概要

学習指導要領において、「道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う」と明示され、道徳の時間の指導の重要性が確認されるとともに、今回の改訂で「特別な教科 道徳」(以下、道徳科)として教科化が図られました。心の教育の充実が一層重要になってきている今日、道徳教育の果たす役割は大きくなっています。

本科目では、道徳教育の目標、指導内容、道徳の時間の指導の特性等について理解を深めていきます。続いて生徒にどのような指導を進めていくのかを考察し、具体的な指導の在り方を考えます。さらに教育活動全体を通しての指導や家庭・地域社会との連携についても学習していきます。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 道徳教育の変遷を理解し、道徳教育の重要性を認識する。
2. 道徳教育の目標、指導内容、道徳の時間の特性等に対する理解が深まる。
3. 道徳の時間の指導に意欲をもち、指導内容や方法を工夫していくことの大切さに気が付くことができる。

■ 科目の学習要点事項

1. 道徳教育の変遷と道徳教育の必要性
2. 道徳科の時間の指導内容と教師の配慮事項
3. 学習指導案の内容と書き方
4. 情報モラルと道徳教育

参考文献

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』文部科学省 教育出版 2018 年

評価基準

■ レポート評価

レポートは課題として課せられたテーマについて、テキストを参照しつつも、自分の言葉で、いかに的確に答えているかに重点を置いて評価する。

■ 科目終了試験評価

45分という限られた時間の中で、独力で答えるものなので、レポート評価と異なり、いかに当事者意識を持って答えているかに評価の重点を置く。

使用テキスト	配本年度
--------	------

『第2版 特別活動の展開』 鯨井俊彦編著(明星大学出版部) 『教科外活動の未来を拓く-特別活動と総合的な学習の時間の世界-』 吉富芳正、菱山覚一郎(明星大学出版社)	2012 年度～2018 年度 2019 年度～
--	-----------------------------

科目概要

特別活動が教科、道徳科、総合的な学習の時間とともに教育課程の一領域を占めていること、そして、それが各教科や道徳科などとは違った教育的意義を持つことを踏まえて、その実践的な理論と指導の基礎を学ぶことを目指す。つまり、特別活動の基本的性格とは何かを中心に学級や学校で展開されるすべての教育活動の再検討につなげて理解を深める。(高等学校も内容的にはほぼ変わらないので、ここでは中学校を中心に考えていく。)

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 特別活動は、学級を単位とする集団や学年や学校全体といったより大きな集団による活動に自主的、実践的に取り組むところにその特徴がある。特別活動では実際の生活経験や体験による学習、「なすことによって学ぶ」(learning by doing)ことを通して、人間関係の形成、社会参画、自己実現を重視し、全人的な人間形成を図るという点を理解する。
2. 特別活動の内容である〔学級活動〕〔生徒会活動〕〔学校行事〕のそれぞれが持つ固有の教育的価値について理解する。
3. 将来、学級担任になったとき、特別活動をどういう形で自らの学級経営に生かしていけるかを考える。

■ 科目の学習要点事項

1. 特別活動の目標、その教育的意義
2. 特別活動の歴史的変遷
3. 学級活動の目標及び内容
4. 生徒会活動の目標及び内容
5. 学校行事の目標及び内容
6. 指導計画の作成と内容の取扱い

※これらの学習に当たっては、平成 29 年 3 月改訂された『中学校学習指導要領』の特別活動の目標、各活動・学校行事の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いを十分踏まえること。

参考文献

『中学校学習指導要領解説 平成 29 年 3 月告示』 文部科学省
『中学校学習指導要領 解説特別活動編 平成 29 年 7 月』 文部科学省(東山書房)
『高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成 30 年 7 月』 文部科学省 (東京書籍)
『中学校新学習指導要領の展開 特別活動編』藤田晃之編著(明治図書)
『高等学校新学習指導要領の展開 特別活動編』山口満編著(明治図書)

評価基準

■レポート評価

レポートの作成に当たっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。その際、レポートの構成にあたっては、論理的に記述すること。例えば、序論・本論・結論など、筋道立てて作成するようにしてください。

■科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい達成されているかを判定するためにある。出題範囲は広いが、それぞれの学習要点に関わるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかにある。特に、学習指導要領については、十分理解しておく必要がある。それらを踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べても評価されない。

したがって、試験の採点は「出題の要点を正しく理解し、その要点に即して論理的に記述する」内容面と「量的にもある程度の分量を記述すること」の両面から採点を行うことにしている。

PC3040	中等教育方法学		
担当教員	今野 貴之	受講方法	RT

使用テキスト	配本年度
--------	------

『教育の方法と技術：主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』
 稲垣 忠編著(北大路書房) 2020 年度～

科目概要

中等教育における教育方法の課題を検討し、情報活用能力を含めた教育実践力の育成をめざす。理論と情報通信技術(ICT)を関係付けながら学ぶ。具体的には、教育方法の理念や歴史を学ぶことに加え、教育現場の実態に即した授業設計や学習指導方法を習得する。その上で、情報通信技術を活用した教材作成や授業実践の方法を学び、教師に求められる情報リテラシーを育む。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育の方法と技術に関するインストラクショナルデザイン(ID)理論が理解できる。
2. 伝統的な学習指導方法と情報通信技術を活用した授業設計や学習指導方法が習得できる。
3. 教育効果の高い授業設計や学習指導方法が実践できるようになる。
4. 教育方法と教育課程および学級経営の関係が把握できる。
5. 教育活動における評価の意義が理解できる。
6. 情報通信技術を活用した教材開発が可能となる。
7. 教師としての情報活用能力が向上する。
8. 生徒の情報リテラシーを育成できるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 授業とその創造
2. 現代の教授理論と歴史
3. 授業設計と評価
4. 教育方法と教材開発
5. 授業における情報機器の活用
6. 情報活用能力の育成
7. 社会構成主義に基づいた学び
8. 教育方法を取りまく課題

参考文献

- ・『教職シリーズ3 教育内容・方法』根津朋実・吉江森男編著(培風館)
 - ・『新しい教育の方法と技術』篠原正典・宮寺晃夫編(ミネルヴァ書房)
 - ・『学校教育と情報機器』堀田博史・森田健宏(ミネルヴァ書房)
 - ・『メディア・リテラシー教育の挑戦』坂本旬(アドバンテージサーバー)
- 各自が履修中の校種および教科の学習指導要領と同解説

評価基準

■レポート評価

- ・単位毎に2つのレポート課題が示されている。両方の課題にそれぞれ解答してあること。
- ・配本されているテキストを通読した上で、レポートのテーマに関連した部分をまとめられているかをみる。また、テキストだけでなく、参考書や辞典の類にも目を向けているかを評価する。
- ・テキストや参考文献などの記述を転記するのではなく、自分の言葉で書き進めてあるか判断する。また、独自の見解や分析が加味されているかもみる。
- ・理論的な視点と具体的な視点の双方を含んでいることがのぞましい。

■科目終了試験評価

- ・全ての回の科目終了試験に、2つの問題が示されている。両方の問題にそれぞれ解答してあること。
- ・テキストを基礎とした学習が進められ、理解が得られているかを評価基準とする。具体的には、教育方法学を学ぶ上での重要事項や用語が、正しく理解されているかを評価する。
- ・評価のポイントは、まず出題の趣旨に沿った解答が示されているかをみる。その上で、理論的に順序立てられて記述されているか、事項や用語に対する認識が有り、文章として説得力を有するかを判断する。
- ・論述文の展開方法・文体・誤字脱字の有無・漢字の適切な使用なども評価の対象とする。また、独自の経験や感想は、出題の趣旨に沿っていない場合は、減点対象とする。
- ・科目終了試験問題一覧の「解答上の注意」の条件を満たしていること。

PC3050	生徒・進路指導論		
担当教員	味形 修	受講方法	RTorSR

使用テキスト	配本年度
--------	------

『改訂 生きる力が育つ生徒指導と進路指導』松田文子、高橋 超編著(北大路書房)

2012 年度～2019 年度

『子どもとともに歩む 生徒指導』味形修(明星大学出版部)

2020 年度～

科目概要

「生きる力」の育成における生徒指導の意義・目的を理解する。このために、生徒の成長を把握し、学校における生徒指導の位置づけを理解する。また、「自己指導能力」の育成を図るための指導内容・方法等の認識を高める。学校・家庭・地域の連携による取組への認識を高め、指導体制等の知識を獲得する。

さらに、将来社会の一員としてよりよい社会を形成する生徒たちの進路(自己の生き方)や就労観、職業観にかかわるキャリア教育についても理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ① 生徒指導の意義・目的・課題を理解し、学校教育の位置づけをつかむ。
- ② 「生きる力」の育成、「自己指導能力」の育成の必要なことを理解する。
- ③ 現代における子どもたちの成長を把握し、特徴をとらえる。
- ④ 「個別・集団」「消極的・積極的」指導の意味を理解する。
- ⑤ 学校の生徒指導体制を把握し、教職員の協働による取組について認識する。
- ⑥ 学校、家庭、地域の連携による生徒の指導(ネットワーク)の理解を深める。
- ⑦ キャリア教育の意義・目的を理解し、学級活動等の指導の充実にむけた意識を高める。

■ 科目の学習要点事項

- ① 学校教育における生徒指導の位置づけ
- ② 生徒指導の意義・目的・課題
- ③ 「生きる力」「自己指導能力」の理解
- ④ 子どもの成長観、現状、課題の理解
- ⑤ 生徒の問題行動と対応・指導について
- ⑥ 学校教育法 11 条(体罰・懲戒)の理解
- ⑦ 生徒指導と教育課程等の教育活動との関係
- ⑧ 部活動の意義や部活動指導の在り方について
- ⑨ 学校・家庭・地域の連携、協働
- ⑩ 人間関係づくりを中心とした学級経営

参考文献

- ①『生徒指導提要』(文科省、2011)
- ②『教師の資質』(諸富祥彦、朝日新書 2013)
- ③『学校って何だろう』(荻谷剛彦著、ちくま文庫 2005)
- ④『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編』(文科省)
- ⑤『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 総則編』(文科省)
- ⑥『生徒指導10の原理100の原則』(堀裕嗣、学事出版 2011)

評価基準

■レポート評価

- ・課題の求めているものを把握、理解したうえで、できるかぎり実践的な指導例などを参考に、学級経営、担任として、また学校組織としての取り組みなど具体的指導のイメージを描き考えをまとめていること。
- ・主観的な判断、考え方に偏った内容の場合は不合格とする。テキストなどの内容に沿って客観的な考察を心がけたうえで、自分の意見をまとめること。
- ・制限字数に満たないものは不合格とする。
- ・他人のレポートの内容に酷似していると判断できる場合は不合格とする。

■科目終了試験評価

- ・レポート作成での自学自習をしっかり行い、上述の学習要点の達成度、科目終了試験の出題の趣旨を理解して解答したかどうかを判定する。
- ・出題範囲はテキスト全体に及ぶ。重要事項等の理解を深めておくこと。
- ・自分の経験や体験を通した確認は必要であるが、その内容や自説を述べても評価はできない。
- ・重要事項や学習要点事項の語句、表現を使用するだけでは合格とはならない。それらの意味や概念を理解したうえで、考えを深めた点を判断する。
- ・出題の意図を把握し、今までの学習の成果を試験の解答に期待する。

『よくわかる！教職エクササイズ③教育相談』森田健宏・吉田佐治子(ミネルヴァ書房) 2019 年度～

科目概要

教育相談必須の生徒理解(思春期の心理、発達の違い、家庭の影響、代表的な相談内容)について学ぶ。カウンセリングの基礎的な理論と技法を知り、個別相談のみならず教科指導や学級経営に活かせる感性を培う。

学校内の相談システムや、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの協働、専門機関との支援ネットワークの在り方について学ぶ。レポート部分だけでなく、テキスト全体を熟読して学習すること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 思春期生徒の一般的心理や発達上の課題について、家庭や社会の背景も踏まえ、多面的に理解する。
2. カウンセリングの基礎理念、代表的理論とそれに基づくコミュニケーション技法を理解する。
3. カウンセリングマインドを身につけ、さまざまな教育活動に活かすための視点を獲得する。
4. 教育相談の実践について、学校組織での位置づけや学校外機関との関わり、実践上の課題について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育相談の定義と実践における課題
2. 代表的な相談(不登校、いじめ、非行等)の理解と教育相談の意義
3. 思春期から青年期に至る心理の特徴
4. 発達障害や精神障害の理解と支援
5. カウンセリングの代表的理論と基礎的技法
6. 教育相談に必要な校内外での協働と連携

参考文献

- ①『絶対役立つ教育相談』水野治久・本田真大・串崎真志(ミネルヴァ書房)
- ②『教師のたまごのための教育相談【改訂版】』会沢信彦・安齊順子(北樹出版)
- ③『教育相談の最前線／歴史・理論・実践』斎藤富由起・守屋賢二(八千代出版)
- ④『生徒指導提要』文部科学省(教育図書株式会社)
- ⑤『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』文部科学省(東山書房)

評価基準

■レポート評価

1. 課題が要求している内容について、要点を正しくつかみ、適切な表現で記述しているか。
2. テキストや参考文献のキーワードを適切に引用し、簡潔かつ必要十分な内容で記述しているか。
3. 1単位につき1500字以上。

■科目終了試験評価

1. 2. はレポートと同様。
3. 1題につき800字以上。

※レポート・試験ともに以下の場合は再提出・不合格とする。

1. ほとんどがテキストの写しであるか、インターネット上の記述の写しである。
2. 他の受講生と同じか、ほとんど類似している。

PC3062	教育相談及び生徒・進路指導論		
担当教員	味形 修	受講方法	RTorSR

使用テキスト	配本年度
--------	------

- ①『【教師のたまご応援ボックス】教師のたまごのための教育相談[改訂版]』（北樹出版）2017 年度～
 ②『改訂 生きる力が育つ生徒指導と進路指導』（北大路書房）2017 年度～ ①②セット配本

科目概要

「生きる力」を育成する視点から、中学校における生徒指導の意義や目的について理解する。現在の中学生の実態を把握し、学校における生徒指導の位置づけについて理解する。さらに生徒一人一人の進路の選択と将来設計いわゆる「キャリア教育」について理解を深める。

学校には、いじめや不登校など解決すべき課題が山積している。教師に求められる「生徒理解」の方法や「カウンセリング」の基礎的な理論や技法を理解し、日々の授業や学級経営に生かすことができる実践力を培う。併せて、関係諸機関、保護者・地域との連携について理解を深める。

学習上の目標

■科目の到達目標

- 1 中学校における生徒指導の位置づけを理解する。
- 2 「生きる力」「自己指導力」の育成の必要性を理解する。
- 3 中学校の生徒指導体制を理解し、教師として果たすべき役割を理解する。
- 4 「キャリア教育」の意義や目的を理解し、指導の充実に向け理解を深める。
- 5 教育相談の意義や目的、学校での位置づけを理解する。
- 6 カウンセリングマインドを身につけ、日々の教育実践に繋げる。
- 7 中学生の心理や成長過程における課題について理解する。
- 8 学校内外における関係機関や専門家との連携・協力について理解を深める。

■科目の学習要点事項

- 1 学校教育における生徒指導の位置づけ（目的、意義等）、
- 2 生徒指導上の今日的な課題
- 3 問題行動の理解、指導・対応
- 4 学校、家庭、地域との連携・協力
- 5 教育相談実施上の諸課題
- 6 教育相談で用いるカウンセリング技法
- 7 思春期から青年期に至る中学生の特徴
- 8 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携、関係諸機関との連携

参考文献

- ・『生徒指導提要』平成 22 年 3 月文科省（教育図書）
- ・『図で理解する生徒指導・教育相談』（福村出版）
- ・『生徒指導・進路指導・教育相談テキスト』（北大路書房）
- ・「発達障害と向き合う」（幻冬舎ルネッサンス新書）
- ・『中学校学習指導要領』（平成 29 年告示）解説総則編（東山書房）

評価基準

■レポート評価

- ・課題の求めている内容について、要点を的確に把握し、学級担任や教科担任として、実践的な取り組みや指導を想定して記述しているか。
- ・テキストや参考文献の内容やキーワードを適切に引用して、自分の考えや意見をまとめているか。
- ・1単位につき1500字以上とする。

【次の場合は不合格とする】

- ・制限字数に満たない場合
- ・内容が他の受講生と同じか、酷似している場合
- ・テキスト等の記載内容と同じ場合

■科目終了試験評価

- ・上記に掲げた学習要点の達成度、科目終了試験の課題を理解して、自身の考えをまとめているか。
- ・その他はレポートの評価と同様。